

〔源氏物語浮標〕十四かはらのおとゞの御れいをまねびて、わらはすいじんを給はり給ける、いとおかしげにさうぞきみづらゆひて、むらさきすそごのもとゆひなまめかしう、たけすがたとゝのひうつくしげにて、十人さまことに今めかしうみゆ、

〔枕草子五〕なまめかしきもの

五節のわらはなまめかし略○中

だいろは五節のほどこそすゝろに只ならで、見る人もおかしうおぼゆれ略○中 清涼殿のそりはしにもとゆひのむらごいとけざやかにていでゐたるも、さまぐにつけておかしうのみ、うへざうしわらはべども、いみじき色ふしとおもひたる、いとことはり也、

〔類聚雜要抄五三〕五節雜事「一可儲本所物」

本結五筋中略四筋村濃下仕料

〔紫式部日記〕たいらかにおはしますうれしさのたぐひもなきに、おとこ一條後にさへおはしましたけるよろこび、いかゞはなのめならん略○中 御ゆどのはとりの時とか略○中 女房二人略○中 うすもの、うはぎ、かとりのも、からぎぬ、さいしして、まろきもとゆひしたり、かしらつきはへておかしくみゆ、

〔洞房語園三〕承應明暦の比、新町山本芳順が家に、勝山といふ太夫ありし略○中 髪は白き元結にて片曲のだて結び、勝山風とて今にすたらず、

〔萬葉集十一〕正述心緒

肥人額髮結在、染木綿染心、我忘哉ウヒトノヒタミガミニケルツクシコノハツレワスレナヤ

〔我衣〕延寶マデハ有合ノ絹切ニテ包ムナリ、元祿ヨリ白キ晒シ木綿ニテシボリ、其儘ムスブ、是風延享ノ比迄用ユ、